

学校関係者評価報告書

学校関係者評価の基本方針

企業・業界団体・学術機関の有識者等との連携により、各専門分野における知見を活かして各学科の教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を教育活動及びその他の学校運営の改善に活かしていく。

開催日 平成27年9月8日 (火) 15:40～17:10

場 所 南海福祉専門学校

学校関係者評価委員出席者（敬称略）

澤田 真弓	兵庫大学 生涯福祉学部 こども福祉学科 講師
森垣 学	大阪府社会福祉協議会 事務局長
油谷 佳典	永寿福祉会 障がい事業部長
国本 知美	東羽衣保育園 園長
幸島 淳	南海福祉専門学校 学校長
古川 正博	南海福祉専門学校 事務長
原田 敬文	南海福祉専門学校 教務部長
野村 脩	南海福祉専門学校 総合福祉科長
久保山 宗男	南海福祉専門学校 事務室主任

評価項目	現状・達成目標	課題と今後の改善方策	学校関係者の評価・提言
<p>(1) 教育理念・目標</p> <p>学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。</p>	<p>「人間（ひと）を大切に」という教育理念のもとに、①勤勉であること、②人・ものを大切にすることをもち、③すべての人に明るく対応できること、④基本的な生活習慣を正しく確立すること、⑤公共心、協調性を身につけること、⑥目的意識・向上心をもち積極的であること、の6つの教育目標を掲げている。</p>	<p>課題</p> <p>知識・技術だけでなく、「人間（ひと）を大切に」という教育理念のもとに「社会人基礎力、社会人マナー等の教育」に力を入れているが、育成と周知徹底が課題。</p> <p>改善策</p> <p>教員の教授能力ならびに学校の教育機能強化を図り、全体指導と個別指導の綿密かつ継続的な実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 明確な教育理念「人間（ひと）を大切に」のもとに、6つの 具体的教育目標を掲げ、学校長がリーダーシップを発揮し、人材育成に努力している。 ○ 教育目標は福祉・介護人材養成校において、『人間力』の向上が求められ、かつ期待されるものである。 ○ 教育目標達成においては、教員の教授能力だけに着目するのではなく、「良き福祉人材育成」に向けての教育理念・目標の全教職員への浸透・共有・実践が求められる。 ○ 「ひとを大切に」という教育理念のもとに、問題を抱えている学生を支援する仕組み作りが必要。 ○ 対人援助職として、社会的マナーや社会常識は重要であり、全学生が授業や特別授業で学べるようにすべきである。 ○ 分野ごとに現場で必要とされるスキルやコンピテンシーが異なるため、理念・目標に基づき、職業人として育成すべき人材像を各学科ごとに設定することが望ましい。各学科において、学生に培ってほしい力を明確にすることで、課題解決への取り組みをより具体的に行うことができる。
<p>(2) 学校運営</p> <p>目的等に沿った運営方針が策定されているか。</p>	<p>年3回の定例理事会において目的等に沿った運営方針の計画、中間報告、報告を行い、明確にしている。</p>	<p>課題</p> <p>運営方針は示されPDCAのPDは明確であるものの、CAが課題。</p> <p>改善策</p> <p>年度当初、年度末に各科、各分掌の計画、総括を行っており、行程表に基づく進捗管理を実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題、改善策ともに明示されている。この策に従って、課題解決が図られることを期待する。 ○ 事業計画において、運営方針は明確に示されているものの、CAが機能していないのは方針が共有されていないものと推察される。 ○ 運営方針を全職員が共有するにはロードマップ（行程表）を導入し、責任と役割を明確にしたうえで、更なる努力が必要である。 ○ 学校の教育・運営方針の重点項目に基づいた各科・各分掌の重点取り組み項目を毎年作成し、教職員が一丸となって取り組むように中間・最終報告を教職員全員の前で発表し全員で共有することが必要。
<p>(3) 教育活動</p> <p>教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。</p>	<p>厚生労働省の指定養成施設指定規則の基準に則り、教育課程を定めており、一般教養科目ならびに選択科目において本校の特色をだし、かつ、授業科目間の連携を考慮して体系づけている。</p>	<p>課題</p> <p>本校の人材育成の特色をいかに教育課程に反映させるのが課題。</p> <p>改善策</p> <p>教育課程、授業内容、授業方法等を含め、本校の強みをいかにすれば発揮できるか全体最適の視点から考えていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 専門学校を取り巻く外部環境を踏まえた上で、6つの教育目標における人材育成の特色を明文化し、具体的かつ実効性のある教育課程編成・授業内容・授業方法等の検討が望まれる。 ○ 上記を実践するにあたって、教職員に対する「人間力向上」の研修や自己啓発の仕組みづくりが教育活動の基盤となると考えられる。 ○ 教員の教育力向上のため、各学期末に学生の授業評価を実施して教員にフィードバックする。教員はリフレクションペーパーを作成し、授業改善に役立てる。 ○ 教員対象に教授能力向上に向けた研修を行う。又、学内での教育研究奨励金（助成金）を教員に付与し、先駆的取り組みや研究を促進することも一つの方法。

			<ul style="list-style-type: none"> ○ 理解の遅い学生には、先輩学生を活用した学習支援体制を作る。 ○ 授業内容や方法は、担当教員の裁量に任されているところが大きいと思われるが、複数の関係者が授業内容を把握、確認することで授業の質の確保にもつながると考える。適正な授業を維持し、全体最適の視点構築を図る意味において、授業公開は有効、具体的には研究授業等が考えられる。 ○ 職業実践能力を培う上で極めて重要な実習における学習効果を高めるために実習評価基準の作成に着手した。
<p>(4) 学修成果</p> <p>就職率の向上が図られているか。</p>	<p>学校運営組織の中に「キャリア支援部」を設置し、クラス担任等と連携し本校学生のキャリア形成と就職活動を支援している。</p>	<p>課題</p> <p>年内就職率100%</p> <p>改善策</p> <p>早期からの一層の就職意識の高揚促進。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題、改善策ともに明示されている。この策に従って、課題解決が図られることを期待する。 ○ 卒業生がすでに管理職や職場の中核として活躍しているので、卒業生を活用した講演や相談会で学生の就労への動機づけやキャリア形成を行う。 ○ 介護福祉現場においては人材確保以前に、人手不足が顕在化している。専門教育卒業生においても、現場でのミスマッチが起きている中、就職率100%も課題であるが、卒業就職に向けての学校の姿勢が就職先との今後更なる信頼関係に繋がるものと考えられる。 ○ 離職についても把握できる仕組みができれば、定着に向けた教育課程等の課題に活かすことができるのではないかと。
<p>(5) 学生支援</p> <p>進路・就職に関する支援体制は整備されているか。</p>	<p>クラス担任制をとり、定期的に個人面談を実施。卒業生の就職している施設による学内就職ガイダンス、模擬面接、スーツディ等の実施により、早期の就職意識の高揚を促している。</p>	<p>課題</p> <p>キャリア支援部、各科、クラス担任が連携を行い、一体感をもっていかにきめ細かい個別対応ができるか。</p> <p>改善策</p> <p>学生、保護者、学校の3者懇談会を通じ、進路選択のミスマッチを防ぐ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 進路選択以前に、卒業できない学生への支援のあり方を検討する必要があるのではないかと。 ○ クラス担任だけでは抱えきれない問題を抱えている学生もおり、心のケアや障がい支援の外部非常勤の専門職雇用も考える必要があるのではないかと。 ○ ハラスメントについては、各科を超えた教員・職員から学内の支援システムとして既に設置されている委員会において、プライマリな対応を徹底していくことが必要。 ○ キャリア支援部、各科、クラス担任が連携することを具体化してはどうか。 ○ 特に保育士に関しては、待機児童解消施策の実施とその後続く少子化、保育教諭等々の動向を鑑み、学生への詳細な情報提供が望まれるものと考えられる。
<p>(6) 教育環境</p> <p>施設・整備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。</p>	<p>教育上必要な機器・設備については整備するとともに、5年間の中期設備更新計画を立て、優先順位をつけて実施している。</p>	<p>課題</p> <p>建物の改修、空調設備等の入替え等高額となる施設整備。</p> <p>改善策</p> <p>実施時期のスケジュール化。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校経営上、長期改修計画・長期設備更新計画は必要不可欠であり、年度単位でのスケジュール化は早急に求められる。平成27年度本館空調設備更新。 ○ 課題、改善策ともに明示されている。この策に従って、課題解決が図られることを期待するが、緊急時の情報共有の方法や学生誘導を普段から教員・学生ともに訓練し確認することが必要。また、防災時の備蓄、設置されているAEDの確認を行うことも必要。平成27年度AED講習を実施予定。 ○ 長期修繕計画の導入とPDCAの実施が必要。

<p>(7) 学生の受入れ募集 学生募集活動は、適正に行われているか。</p>	<p>大阪府専修学校各種学校連合会が定めた専修学校版AO入試に関する運用基準に沿って、スケジュール、留意事項等を遵守し、適正に行っている。</p>	<p>課題 本校の教育活動の特色、魅力をいかに正確かつ分り易く伝えられるか。</p> <p>改善策 高校訪問、ガイダンス、出前授業、HP等を通じ、福祉の仕事の魅力度、職業教育の実践の場を地道に誠意をもって発信していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 少子化の影響を受けている現状や不利な立地条件を鑑み、「魅力」・「特色」の視点から、いかに入学希望者を増やすかの検討余地は大きい。 ○ 学生募集については、受験生へのアピールだけでなく、地域住民への公開講座や地域交流などにより、地域全体へのアピールと地域福祉への貢献を行い、地域での存在感を強めることが必要。 ○ 学生募集については、オープンキャンパスを有効な魅力発信の場と捉え、受験生への直接的なアピールを期待する。また、専門学校の特性として、社会人への情報発信を積極的に行うことが重要である。 ○ 学校の魅力づくり、評価向上、ブランドイメージ向上を目的に、特色づくり教育・研究、周辺環境、就職の観点から検討中。
<p>(8) 財務 中長期的に財務基盤は安定しているといえるか。</p>	<p>資産、負債、損益、キャッシュフローとも健全で、中長期的に財務基盤は安定している。</p>	<p>課題 財務基盤との両輪である経営基盤確立。特に、学生数の維持・確保。</p> <p>改善策 福祉の仕事が魅力ある職業として、魅力ある実践教育の場であることを高校訪問、ガイダンス、出前授業、HP等にて、高校生・社会人に地道に発信していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題。改善策ともに明示されている。この策に従って、課題解決が図られることを期待する。 ○ 経営基盤の確保は重要であることは確かであるが、入学者数の確保とリンクさせると、教育効果・人材養成との間でディレンマが生じる恐れがある。 ○ 財務基盤が安定している時期に「結果としての収入確保」（経営基盤の確保）のあり方を検討されたい。
<p>(9) 法令等の遵守 法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。</p>	<p>学校教育法、その他の法令、専修学校設置基準等に基づき適正な運営を行っている。</p>	<p>課題 法改正に対する確かつ迅速な対応。</p> <p>改善策 常に広くアンテナを張って、業界動向、社会ニーズ、法改正の情報等の収集力を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題、改善策ともに明示されている。この策に従って、課題解決が図られることを期待する。 ○ 課題・改善策とも最低限守るべきことであり、日常業務の中で全教職員に浸透する努力を継続されたい。